

福原の花街地を中心にして、大小幾百のカフェー、バー、何とまあ恐ろしく出来たものよ!と只々驚歎の外はありません。

麗美有會館、優美會館、明眸會館なんてレストランを始め、カフェー・ロンドン、パリジャン、數島、扇港亭、コロンビヤ、おにいちやん、アルプス、マルセーユ、いやあるわ、あるわ。その何れも近代風な裝飾を施して、耳朵が引千切れるほどジャズと唄でまくし立てる。

お蔭でバカを見てるのが花街に咲く夜の花です。年々歳々お茶つ引の女郎と、藝妓は増えるばかりで、花街地に浸入するお客さまの金をマンマと途中で横取されてるかたちで甚だもつて面白くない。

尤もカフェー業者に云はすれば、そこが狙ひどころで、どうせ花街地をうろろするやうな奴は、大なり小なりあぶく金をもつてゐる。その金をムザムザ娼妓や藝妓に巻きあげられてなるものかと、福原の不夜城を一大女給群で包圍攻撃したわけ。

だが、呑んだ丈では物足りないと見えて、矢つ張り年の若い連中は行く所までは行つてくる。といふよりも、花街地附近の女給に對しては取締りがきびしいし、又、取しまりをきびしくして貰

ふべくいろんな運動が年中絶えないのも事實です。

現在福原には三百七十餘軒 妓樓と、四千七百二十餘人の娼妓を有し、その規模、點から云つても日本屈指の大花街ですから、さうさう女給に巻きあげられては、この一廓内數萬人の人間が餓死せねばなりません。

最近一ヶ月の統計によると彼女たちに戯れた嫖客が二十二萬八千八百六人、一日平均、七千六百餘人——ちよつとバカに出来ないではありませんか。

それに新開地には幾多の劇場や、映画館がある。松竹座のレヴューが押すな押すなの盛況なら、楽

樂館もそれである。水族館の海女の飽取では海女が紅裙のすきまから白い素足を散らつかせるといふ——歌麿好みの演藝で、爛れ切つた神戸人の神経を刺戟する。

レヴュー・ガール、射的屋の女、デパートの女、その他もろくのサーピス・ガール、神戸の女性はそのすべてを打つて一丸となし、大なり小なりエロの風潮に染まぬはないといふ。あゝガイタンすべ

きミス神戸よ。お前はいつたい何處へ行く——といひたくなるのは豈只僕一人でありませうか？

然も、新開地のグロ味はなかく、こんなことでは盡きません。

公園のベンチに、花街の入口に、或ひは暗い路次裏に、多数のガイドと(神戸ではボンビキといふ)ストリート・ガールが縦横無盡に暗中飛躍をつけてゐる。

花街の入口あたりに屯ろしてゐるボンビキは、いゝ椋鳥を見つけるとたいていは平野の淋しい屋敷町に案内する。出て来るのは船員の未亡人や、盛り場のシヨップ・ガールなどで、大膽な女は夜の十二時前後になると單身出かけて交渉する。

けれども、なかにはさうした悪風を怒々端睨して生活戦線的第一線に立つ娘子供がある。淡川公園東側の道路に並んでゐる美人揃の開東煮屋の一團がそれです。

今もゐると思ふが石川屋のアサちゃん、あびす屋のツルさん、岡山屋のヨシちゃんなど、淡川のスリー・ガールとしてバラケツ愚聯隊たちさへ手を出しかねる女傑です。

開店當時は凡ゆる方面から誘惑の魔手がのびたが、彼女たちは何れも申し合せたやうに断乎として

異性の誘惑を退けました。今日ではそれが素晴らしい評判となつて、紳士や粹人たちが軽い気分でも何等の野心なく彼女たちの料理を賞味してゐます。

エロの港に咲く美しい花として、いつまでも蕾のまゝで咲かせてをきたいものではありませんか？  
え、異議ありですつて？

また、前借料三萬圓の娼妓、共立檢の名妓、不見神、いろいろ書きたいことはあるのですが、盡くしながらこれ位にして、最後にブルジョア愚聯隊の巢窟と云はれる阪神沿線に逆戻りして神戸篇を終ることにしませう。

### ブルジョア愚聯隊

神戸大阪間の沿線は、最も理想的なる郊外住宅地として、善屋、住吉、枕瀬、夙川、香櫨園等を數へあけると際限がありません。

なにしろこの附近には高級サラリーマンや、会社の重役連の文化住宅がゴロ／＼して、不景氣風は

どこを吹いてゐるのか、まるで別世界の感があります。

然し、俸給が多かつたり、財産のある人間がみんな眞面目であるとは限つてゐません。寧ろ事實はその反対で、プロ階級は安っぽい酒でも呑む以外には楽しみはありませんが、金のある人はさう簡単に人生を片づけるわけには参りません。

ですから、阪神間にあるダンス・ホールは神戸市内にあるそれよりもずつと美人が多いし、出入する客種がもつと上流であつたり、ホールの規模が壮大であつたりすることは、少しも不思議ではありません。

佛教信者からはまるで生佛さまのやうに云はれてゐる大谷尊由氏などが、チャキチャキのモガと喰つき合つて踊つたからと云つて、別にそれは不思議でもなんでもないのです。

實業會館、大物のキング、東長洲前のパレス、枕瀬のダンス・ホールなどは上流の御夫人や、そのマドモワゼルたちの最もよき娯楽の場所でなければなりません。

辰馬家の若奥様が若い安月給取と一緒になつたり、由緒ある實業家の令夫人が外人と六甲ホテルに

雲隠れしても、或ひは又脂肪ぶとりにふくれ上つたトツチヤンボーイがダンスを娘のやうに見せびらかせて歩いて、そんなことはたいした問題ではありません。

たゞいけないことは、變なナイトクラブをつくつたり、怪しからぬ映畫を若い職業婦人に見せたりすることです。

かなり以前にも六甲クラブと云ふのが檢査されて、ビール樽みたいな禿頭連が頭をベコ／＼下けてやつと勘辨してもらつたことがあります。咽喉元すぎれば何とやらで、最近はこの種のクラブが又二つ三つ出来たやうです。そのたびにダンサーなどが引合に出されたのでは一寸可愛さうですから、彼女たちにはせいぜい假裝舞踏會や、野球チーム位のところであつて欲しいものです。あまりあばき散らすとどんな飛ばつちりが来ないとも限りませんから、阪神沿線のナイトクラブは只あるといふことだけに止めてをきませう。

その申わけといふわけでもありませんが、阪神沿線ダンス・ホール評判記を二つ三つ記載してお茶を濁します。

キングの巻

一つのダンス。ホールに三人もの姉妹が一緒に踊つてゐる例は他では見られない。キングの浦川政子も三人姉妹は、何れも獨身者で結婚の申込は末っ子からでも誰からでも差支へないさうです。

名ダンサー市原の勝美さんの妹正恵ちゃんも、枕潮のドサタサ(どんなドサタサつて説明は要しませんが)にまぎれてキング入りしてつた。

その正恵ちゃんが珍らしくも先日、大學生の拳闘大会に見物に行つて、萬緑叢中の紅一點ぶりを見せました。關大のミーさんの應援に行つたらしい。

スベシアル・ショーのゆふべに探原の綾ちゃんも日本舞踊「唐人お吉」を踊つた。粹な艶姿に「えーなの」と恍惚したのは、ヤーさんはヤーさんでも老人の方のヤーさんではなかつたでせうか。

寶塚會館の巻

一ヶ月餘もの長い間、ベッド生活で難病に呻いた萩原郁子、久しぶりでホールに出勤して

「寶塚のあの敵醫者を一生恨んでやるわ」

と怨み言。と言つて色戀の沙汰ではなく、なんでも怪しい丸薬を吞まされたのが祟りで盲腸炎にかつたのだと彼女は思ひつめてゐるらしい。

枕潮の巻

舊職、生駒へ奔つた浦とし子が半月ぶりでも又枕潮へ舞ひ戻つた。島田姿のよく似合ふ左袂掛身のまノ子が断髪してつた。「なんで毛を切つた。」と氣になる人がきくと、黙つて涙ぐんでゐた。なんでやあ。

古川綾子はピアノの菊地君と一緒にたつたのでホールをやめた。未新聞に菊地君は十何回目かの結婚と報道してあつた。

かうしたポピュラーなゴシップによつてさへ、その内状の並々ならぬものが想像される位だから、発表されないものに至つては押して知るべしではありませんか。

サテ、今回は以上で日本歌集案内を終わりますが、他の土地については今後とも機会あるごとに発表して行くつもりであります。

日本歌集案内終

昭和六年四月十一日印刷  
昭和六年四月十五日發行



本日歌集案内

著者	酒井 潔
発行者	東京市本郷區丸山町十三 伊藤 敬次郎
印刷者	東京市牛込區町三丁目十 片岡 彌三郎
發行所	東京市本郷區丸山町十三 竹 崎 書房

(定価全書五拾錢)

### 談奇群書發刊辭

元來私は一粒振りの珍本を、出来る丈贅澤な装幀で、一流の製本家の手にかけて、書数も四五百位の限定版を出す事が好きでした。

所がこの道樂は甚だよくないと云ふ事だ。何故だつて聞いたら、自來十五キロが二冊を三冊で買へる時代に、一冊の本に五回十回出す馬鹿者(イヤ失敬)があるものかと云ふ答へだつた。

其處でつら／＼熟慮した結果、目下連續著述の「談奇」をやつてゐる序でに、安くていゝ本を併せて見たいと思つた。斯う考へたのは、自來十五キロ問題で一本送つた所もあるが、必ずしもそれ許りではない。と云ふのは、私達の仲間内で、酒井と云ふ男は、高い材料を使つて、贅澤な本しか作れないと云つた癖な批評がある。これは實めたのが腹したのか分らんが、兎に角私としても、一かどの装幀家も以て任じて居る手前、安い材料を使つたつて面白いものが出来なはる香はないと、と柄にもなく、慨然として立ち上つたと云ふわけである。

すると、東茂内男が、今時装幀が面白いと云つて本を買ふ人間はないよ。自來十五キロが……待つた！ 持ち給へ！ とう十五キロ三冊の話を分つたよ。よろしい。そんなら内容も、うんと肩の凝らぬ面白い、大衆的で上品で、深刻で、皮肉で……まづこれを讀んで面白くないと云ふ男は、餘程念の入つた低能兒(オット又失敬)だと云ふ物を作つて御覽に入れやう。

と云ふ素晴らしい意氣込みで計案したので即ち、此の「談奇群書」であります。

#### 談奇群書既刊目録

- 第一編 「巴里上海歌樂舞案内」 定價金壹圓五拾錢・送料十二錢
- 第二編 「奴 諷 祭」 定價金壹圓貳拾錢・送料十二錢
- 第三編 「浮世オン・パレード」 定價金壹圓八拾錢・送料十二錢
- 第四編 「日本歌樂舞案内」 定價金壹圓五拾錢・送料十二錢

#### 發行所

東京市本郷區丸山福山町十三番  
 飯舘口座東京二四三番

竹 醉 書 房

禁風1  
171

